

## 論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 552 号	氏名	介田 圭
学位審査委員	主査	鮎瀬 卓郎	
	副査	筑波 隆幸	
	副査	池田 通	
論文審査の結果の要旨			
<p>1. 研究目的の評価 本研究は天然有機生理活性素材である D-グルコサミンが末梢鎮痛機構、特に疼痛抑制効果を有している可能性について解析するために行ったものである。目的は十分に妥当である。</p>			
<p>2. 研究手法に対する評価 <i>In vitro</i> 下顎一神経標本を使った電気生理学的手法を駆使し、下歯槽神経から単一ニューロン活動を記録している。起炎物質であるブラジキニンを滴下し、その後 D-グルコサミンを滴下して単一ニューロンの発火活動の変化をリアルタイムスパイク記録ソフトを用いて解析した。測定・解析した神経線維は象牙質知覚過敏に関する A<math>\delta</math> 線維ではなく、歯髄の炎症応答に関与する C 線維の選択を試みた。これらの方法は、本研究の目的に照らして妥当である。</p>			
<p>3. 解析・考察の評価 本研究では、より臨床に近い形で、直接作用としての鎮痛効果を検討した。その結果、露髄面に存在するブラジキニン感受性の侵害受容器が、D-グルコサミンにより興奮性を低下させられたと考えられる。今後、D-グルコサミンの膜レベルでの疼痛抑制メカニズムを解明していく中で、重要なデータになると思われる。</p>			
<p>以上のように、本論文は D-グルコサミンの鎮痛作用を解明する研究として重要な位置を占め、かつ今後の研究の進展に寄与するところが大きい。審査員は全員一致で博士(歯学)の学位に値するものと判断した。</p>			